

# アセクシュアル・アイデンティティ研究の現状と課題

## —国内外における実証研究のスコーピングレビュー—

此下 千晶 お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科

石丸 径一郎 お茶の水女子大学基幹研究院

### 要約

アセクシュアル (Asexual) は「性的惹かれを経験しない人」として定義されることが多い、性的指向の1つである。近年、研究者の間でアセクシュアル・アイデンティティに対する関心が高まっている。本研究はアセクシュアル・アイデンティティ研究における知見のマッピングとギャップの特定を目的として、海外の文献 (レビュー1: 34 文献) と日本の文献 (レビュー2: 1 文献) のスコーピングレビューを実施した。レビューの結果、得られた知見を4つのテーマ (アセクシュアル・アイデンティティの①特徴, ②機能, ③発達, ④自認している人の特徴) に分類した。レビュー1では、アセクシュアル・アイデンティティの機能、恋愛の指向、メンタルヘルス、複数のアイデンティティの交差性に関してさらなる研究の必要性が見出された。レビュー2では、日本のアセクシュアル研究は初期段階にあることが確認された。

**キー・ワード**: Asexual, アセクシュアル, アイデンティティ, 自認, スコーピングレビュー

## I はじめに

### 1. アセクシュアルとは

近年、性的マイノリティに対する社会的関心が高まっているが、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー (以下、LGBT) 以外の認知度は未だに低く、社会において不可視化されやすい。その1つにアセクシュアル

(Asexual) がある。

アセクシュアルの定義は研究者によって様々であるが、世界最大のアセクシュアル・コミュニティである Asexual Visibility and Education Network (以下、AVEN) のウェブサイト (2022年8月18日最終アクセス) では「a person who does not experience sexual attraction (性的惹かれを経験しない人)」とされている。また、American Psychological

Association (2021) のガイドラインには「a sexual minority orientation that refers to individuals who do not experience sexual attraction or desire. (性的惹かれや欲求を経験しない個人を指す性的マイノリティの指向)」と記されており、性的指向の1つとして概念化されている。

アセクシュアルについて考える際に言及すべき重要な概念としてアロマンティック

(Aromantic) がある。AVEN のウェブサイトによると「恋愛的に惹かれない、または恋愛関係を望まない」という意味で、恋愛の指向の1つとされている。

アセクシュアル・コミュニティでは、恋愛の指向と性的指向を分けて捉えるスプリット・アトラクション・モデル (Split Attraction Model) と

いう考え方がしばしば用いられており、他者に恋愛愛的に惹かれないアセクシュアルのことを「アロマンティック・アセクシュアル」、他者に恋愛愛的に惹かれるアセクシュアルのことを「ロマンティック・アセクシュアル」と呼ぶ傾向がある

(AVEN ; 三宅他, 2021)。

一方で、日本には独自の区分が存在する。三宅他 (2021) と吉岡 (2019) が言及しているように、日本ではアセクシュアルを「アロマンティック・アセクシュアル」に近い意味で使用し、「ノンセクシュアル」という言葉を「ロマンティック・アセクシュアル」に近い意味で使用することがあり、このような独自の区分と海外の区分が混在している。本論文では、海外の区分を採用することとする。

## 2. アセクシュアル研究の歴史

アセクシュアルは Kinsey et al. (1948) 以来、研究において散見されるようになった。そして、イギリスの大規模サンプルにおいて約 1%が他者に性的惹かれを感じないという Bogaert (2004) の報告を皮切りに、本格的に注目されるようになった (Yule et al., 2015)。

日本におけるアセクシュアル研究は初期段階にあり (吉岡, 2019)、実証研究は極めて少ない。

今後のアセクシュアル研究の発展のためには、海外と日本における研究の現状を把握して整理する必要がある。

## 3. アセクシュアル・アイデンティティ

アセクシュアルにおける重要な要素としてアイデンティティがある。ある個人がアセクシュアルの定義に当てはまる性質をもっていたとしても、それを自認するかどうかは別の問題である。

三宅他 (2021) はアセクシュアル概念の意味内容だけでなく、アセクシュアルというアイデンティティが持つ機能について検討する必要性を示していた。また、Morgan (2013) は、近年の研究に

おいてアセクシュアル・アイデンティティの発達過程に関心が高まっていることを述べていた。

## 4. 本研究の目的・意義

本研究の目的は、国内外におけるアセクシュアル・アイデンティティ研究の知見を系統的にマッピングし、知見のギャップ (研究がされていない、または不足している領域) を特定することである。

本研究はアセクシュアル研究の発展に寄与するという点で意義がある。また、臨床場面におけるアセクシュアルの理解や、社会に向けたアセクシュアルの可視化に貢献し得ると考えられる。

## 5. 研究疑問

本研究における研究疑問は「アセクシュアル・アイデンティティについて、得られている知見は何か？」である。

研究疑問を作成する際、PCC (Patient, Concept, Context) のフレームワーク (友利他, 2020) を活用し、Patient: アセクシュアルを自認している人、Concept: アセクシュアル・アイデンティティ、Context: 指定なし (レビュー1)、日本 (レビュー2) とした。

## II 方法

海外 (レビュー1) と日本 (レビュー2) におけるアセクシュアル・アイデンティティ研究のスコopingレビューを実施した。

レビュー1 は国や場所を指定せずに英語のキーワードで検索し、レビュー2 は日本の研究機関を指定し、日本語のキーワードで検索した。

### 1. ガイドライン

スコopingレビューの実施にあたり、沖田他 (2021) と友利他 (2020) のガイドラインを参照した。

### 2. 検索方法

#### 1) レビュー1

検索のデータベースはPubMedとScopusを用いた。最終的な検索式は「“asexual identity” OR “asexuality identification”」とした。最終検索日は2022年8月18日(PubMed)、8月31日(Scopus)であった。

検索の流れとして、沖田他(2021)が推奨している3段階の検索方法を採用した。まず「“asexual identity”」で検索を行い(データベース検索)、検索された論文のタイトルと抄録、および論文に記述されたキーワードの分析を行った結果、「“asexuality identification”」を含めて2回目の検索を実施した(キーワード分析)。その後、本文を参照した際の引用文献を基に追加の情報源を検索した(引用文献の調査)。

### 2) レビュー2

検索のデータベースは医中誌とCiNiiを用いた。最終的な検索式は「(アセクシュアル OR アセクシャル OR Aセクシュアル OR Aセクシャル OR エイセクシュアル OR エイセクシャル OR ノンセクシュアル OR ノンセクシャル OR Asexual OR Asexuality) & (アイデンティティ OR 自認)」とした。最終検索日は2022年8月18日であった。

検索の流れはレビュー1と同様、沖田他(2021)が推奨している3段階の検索方法を用いた。まず「アセクシュアル&アイデンティティ」で検索を行った。キーワード分析を行った結果、アセクシュアルを表す多様な日本語表記と「自認」というキーワードを含めて2回目の検索を実施した。その後、本文を参照した際の引用文献を基に追加の情報源を検索した。

### 3. 選択方法

初期の文献選択は筆頭著者と第二著者で独立して実施した。意見の相違に関して協議を行った結果、包含基準の追加を決定し、その後は新たな基準に則って筆頭著者が選択した文献を第二著者が確認して協議するという流れを採用した。

### 1) レビュー1

包含基準は、(1)「人間の性的指向としてのアセクシュアル・アイデンティティに関する実証研究」、(2)「2022年7月までに公刊された査読付き論文」、(3)「英語の論文」とした。また、除外基準は「人間以外の生物や細胞の生殖に関する研究」とした。

文献選択のフローチャートは友利他(2020)に基づいて作成した(図1)。

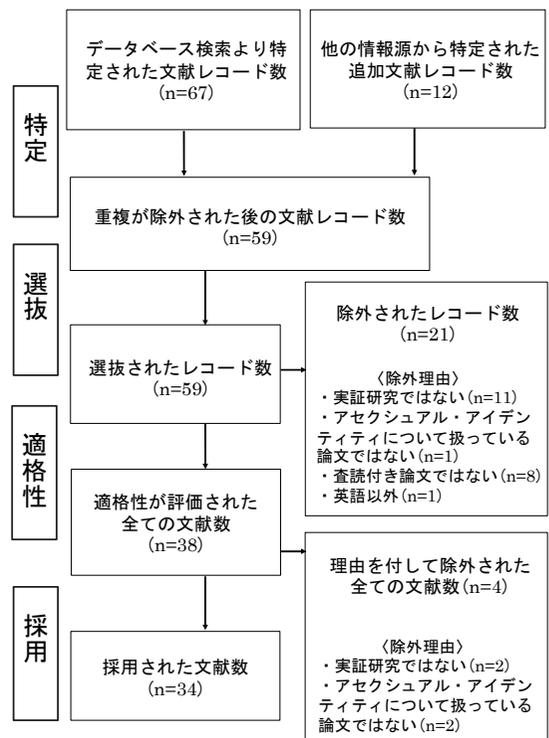


図1 フローチャート(レビュー1)

### 2) レビュー2

包含基準の(1)と(2)はレビュー1と同様とし、(3)を「日本の機関で行われた研究」とした。除外基準もレビュー1と同様とした。

文献選択については、データベース検索より特定された文献レコード5本(引用文献を基に追加された文献は0本)から、「実証研究ではない」という理由で4本を除外した結果、採用された文献は1本となった。

#### 4. データ抽出

筆頭著者が抽出した結果を第二著者が確認して協議するという流れを採用した。具体的には、(1)「著者」、(2)「発行年」、(3)「国、地域」、(4)「目的」、(5)「対象、サンプルサイズ」、(6)「方法」、(7)「研究疑問に応じた主要な発見」、(8)「研究におけるアセクシュアルの定義」を抽出した。

### Ⅲ 結果

文献要約表(レビュー1:表1, レビュー2:表2)を巻末に掲載した。著者情報, 研究におけるアセクシュアルの定義, 研究デザイン, 対象, 調査内容, 主要な発見を記し, 発行年順に並べた。

アセクシュアルの定義は以下の3つに分類して記した。Ⅰ「性的惹かれの欠如(ない, 程度が低い, 経験しない)」、Ⅱ「性的欲求の欠如(ない, 程度が低い, 経験しない)」、Ⅲ「性行為に対する関心の欠如(ない, 程度が低い)」である。

主要な発見は4つのテーマ(アセクシュアル・アイデンティティの①特徴, ②機能, ③発達, ④自認している人の特徴)に分類して記した。

#### 1. レビュー1

レビュー対象となった34文献の研究デザインは質的研究(18本), 横断研究(12本), コホート研究(1本), 混合研究(3本)で, 刊行年は2007年~2022年であった。

国はアメリカ(17本), イギリス(4本), カナダ(3本), アイルランド(3本), ニューゼaland(2本), 中国(2本), ベルギー(1本), ポルトガル(1本), スコットランド(1本)の9カ国であった。日本の研究はデータベース検索の段階から見受けられなかった。

アセクシュアルの定義としては全文献の65%がAVENの定義と一致するⅠ「性的惹かれの欠如」を採用していた。参加者の募集先としては, 全文献(募集先不明の2文献を除く)の69%がAVENを含んでおり, 28%がAVENのみを利用してい

た。また, 量的研究(横断・コホート・混合研究)の25%が, アセクシュアルの特性を測るYule et al. (2015)のAsexuality Identification Scale (AIS)を使用していた。

以下では, 文献要約表に即して4つの主要な発見(アセクシュアル・アイデンティティの①特徴, ②機能, ③発達, ④自認している人の特徴)を整理していく。

#### 1) アセクシュアル・アイデンティティの特徴

アセクシュアル・アイデンティティの主要な特徴として「性的惹かれ」の特性を示した文献もあれば(Su et al., 2022), 「性的欲求」の特性を示した文献もあった(Prause et al., 2007)。

コホート研究ではアセクシュアル・アイデンティティの経時的な安定性が示されており(Su et al., 2022), 他の文献においてもアセクシュアルを有効な性的指向とみなす考え方が支持されていた(Mandigo et al., 2022; Su et al., 2022)。

次に, 多くの文献でアセクシュアル・アイデンティティの多様性が示されていた。アセクシュアル内の様々なカテゴリーとスペクトラムの存在を示した文献や(Dawson et al., 2016; Dawson et al., 2018; MacNeela et al., 2015; Su et al., 2022; Zheng et al., 2018), アセクシュアルと恋愛指向との組み合わせに注目する必要性を示した文献が存在した(Carvalho et al., 2022; Scherrer, 2008; Van Houdenhove et al., 2015)。

最後に, アセクシュアル・アイデンティティのカミングアウトに関する研究も散見された。カミングアウトに対する他者からの否定的・拒絶的反応の経験が明らかとなり(Robbins et al., 2016; Van Houdenhove et al., 2015), アセクシュアルに対するスティグマの存在が示唆された。他者に対する性的惹かれや性的欲求が“ないこと”を周囲に説明すること, 理解されることの難しさも特徴として浮かび上がった(Dawson et al., 2018; Robbins et al., 2016)。

#### 2) アセクシュアル・アイデンティティの機能

アセクシュアル・アイデンティティの獲得による自己明確化の達成を示した文献や (Carrigan, 2011), アセクシュアルの発見または自認による安堵感や自己受容, 自尊心への良い影響を示す文献が存在した (Kelleher et al., 2022a; Mandigo et al., 2022; Scott et al., 2016)。

Scott et al. (2016) の調査では, アセクシュアルを自認している人の中で, アセクシュアルを自分のアイデンティティにおける重要な要素として捉える人と, そうでない人が存在することがわかった。

Ronis et al. (2021) の結果からは, 「AIS スコアがカットオフを上回っていてもアセクシュアルを自認していない人々」の存在が明らかとなった。

3) アセクシュアル・アイデンティティの発達  
アセクシュアル・アイデンティティの発達段階を示す文献が複数見受けられた。多くの文献が, 初期の段階として「周囲との差異の感覚」を示していた (Brotto et al., 2010; Carrigan, 2011; Kelleher et al., 2022a; Kelleher et al., 2022b; Mandigo et al., 2022; Robbins et al., 2016; Van Houdenhove et al., 2015)。また, いくつかの文献は中期の段階として「自分自身の探索」や「自問自答」を示し (Carrigan, 2011; Mitchell et al., 2019; Scott et al., 2016; Van Houdenhove et al., 2015), 後期の段階として「発見」や「自己明確化」を示していた (Carrigan, 2011; Kelleher et al., 2022b; Mandigo et al., 2022)。

加えて, アセクシュアル・アイデンティティの形成過程で経験することとして, LGB やパンセクシュアル (全ての性を対象とする, あるいは性に関係なく惹かれる性的指向) 等, 別の性的指向の可能性を探る傾向や (Kelleher et al., 2022a; Van Houdenhove et al., 2015; Winer et al., 2022), 性行為を試みることで特性を自覚または確認する傾向 (Kelleher et al., 2022a; Mitchell et al., 2019) が示されていた。

形成過程におけるアセクシュアル・コミュニテ

ィの影響についても示唆が得られた。複数の文献が, AVEN に代表されるインターネット上のコミュニティがアセクシュアルの発見やアイデンティティの達成に寄与することを示していた (Carrigan, 2011; Dawson et al., 2018; Foster et al., 2014; Kelleher et al., 2022a; Kelleher et al., 2022b; Mitchell et al., 2019; Scott et al., 2016; Van Houdenhove et al., 2015)。

また, 形成過程の世代間差異についても示唆が得られた。MacNeela et al. (2015) の調査における高齢の参加者は, インターネットが普及していなかった時代にアセクシュアルを理解する機会がなかったことを振り返って述べていた。Dawson et al. (2018) は, AVEN 等のコミュニティができる前のアセクシュアルの人々はアセクシュアルを認知しておらず, 別のアイデンティティを確立していた可能性があるとして述べていた。

最後に, アセクシュアル・アイデンティティと個人の別のアイデンティティ (性自認, 人種等) の相互作用について検討する必要性が見出された (Foster et al., 2019)。

4) アセクシュアルを自認している人の特徴  
人口統計学的情報として, 女性の割合が高く (Greaves et al., 2017; Robbins et al., 2016), シスジェンダー (性自認と出生時の性が一致している人) の割合が低いことが示唆された (Greaves et al., 2017)。

また, 複数の知見より, アセクシュアルの人々の性的興奮や性的欲求に関する示唆が得られた。具体的には, アセクシュアルの多くの人々がマスターベーションを経験しており (Brotto et al., 2010; Prause et al., 2007), 身体的な性的興奮の能力を明らかにしていた (Mandigo et al., 2022; Van Houdenhove et al., 2015)。そして, アセクシュアルの人々の性的欲求として, 他者との性行為に対する関心は低いことが示唆された (Greaves et al., 2017)。また, 自分1人の性行為 (マスターベーション等) に対する関心は通常のレベルと大きな差がなく存在していることが示されて

いた (Prause et al., 2007; Su et al., 2022; Zheng et al., 2018)。このように、アセクシュアルの人々は性的興奮や性的欲求を経験し得るが、それが他者に対して向かないということが重要な要素として浮かび上がった。

関連して、性行為に対する態度は多様であることが示唆された。具体的には、ポジティブに捉える人、関心がない人、不快感・嫌悪感を覚える人の存在が示されていた (Bulmer et al., 2018; Carrigan, 2011; Van Houdenhove et al., 2015)。

次に、メンタルヘルスに関する知見も複数見受けられた。Yule et al. (2013) は、アセクシュアルの人々の自殺傾向が高いことや、アセクシュアルがメンタルヘルスや対人関係の問題と関連する可能性を示していた。加えて、PTSD や性的トラウマを報告する可能性が高いことも示されていた (Parent et al., 2018)。一方で、Greaves et al. (2017) は、アセクシュアルであることが精神的・身体的健康に悪影響を及ぼすことは認められないという結果を示していた。

同じく臨床面の示唆として、アセクシュアルの人々は医療機関において理解されない、あるいは障害と見なされることが多く (Flanagan et al., 2020; Scherrer, 2008)、アセクシュアル・アイデンティティを医療従事者に開示しない傾向があるという報告があった (Flanagan et al., 2020; Rothblum et al., 2020)。

最後に、他の性的マイノリティとの関係性について示唆が得られた。アセクシュアルの人々はセクシュアル・アイデンティティで特定される集団 (LGB 等) に対して否定的態度を示す一方で、ジェンダーやクィア・アイデンティティで特定される集団 (トランスジェンダー、ノンバイナリー等) に対しては否定的態度を示さないという結果が報告されていた (Worthen et al., 2021)。アセクシュアルを歓迎しない LGBT グループが多いという報告もあった (Dawson et al., 2018)。また、アセクシュアルの人々の間で、性的マイノリティ

の総称である LGBTQ に対する帰属意識は様々であることが明らかとなっていた (Mollet et al., 2018)。このように、LGBTQ コミュニティとの複雑な関係性が浮かび上がった。

## 2. レビュー2

レビュー対象となった文献は1本のみであり、日本のアセクシュアル研究は初期段階にあることが再確認された。得られた知見を以下に示す。

### 1) アセクシュアル・アイデンティティの特徴

日本でアセクシュアルの認知度は低く、性的話題は忌避される傾向があり、当事者自らが積極的に行動しなければアセクシュアルという用語や他の当事者に辿り着くことは困難であることが示されていた (吉岡, 2019)。

### 2) アセクシュアル・アイデンティティの発達

自覚のプロセスとして、交際等の経験を通じて周囲とのギャップを認識する (第一段階)、アセクシュアルという用語を知る、当事者の存在を知る (第二段階) という段階が浮かび上がった。アセクシュアルの自覚と自己受容は同時になされる可能性が示されていた (吉岡, 2019)。

## IV 考察

### 1. レビュー1

#### 1) ギャップの特定・今後の研究への示唆

結果より、主に4つのギャップが特定された。第1に、主要な発見の1つである「アセクシュアル・アイデンティティの機能」についてさらなる研究の必要性が見出された。レビューの結果として、アセクシュアルが個人のアイデンティティにおける重要な要素になる場合とならない場合が示されたが、両者の違いに関する示唆は得られていない。さらに、「アセクシュアルの性質を持っていて、自認していない人々」の存在が明らかとなったが、彼らが自認していない理由や自認している人々との相違に関する研究は不足している。アセクシュアルを自認することは個人にとってど

のような意味を持つのか、さらなる検討が必要である。

第2に、恋愛指向に関する研究の必要性が見出された。レビューの結果として、アセクシュアル・アイデンティティにおける恋愛指向の重要性が確認されたが、恋愛指向とアセクシュアルの組み合わせによるアイデンティティ形成過程の相違や、恋愛指向がアセクシュアル・アイデンティティに与える影響等の知見は得られていない。アセクシュアル・コミュニティにおいてスプリット・アトラクション・モデルが重視されていることを考慮すると、恋愛指向に関する研究の発展が望まれる。

第3に、臨床心理学の観点から考えると、アセクシュアルを自認している人々のメンタルヘルスについてさらなる研究が必要である。レビューの結果として、メンタルヘルスの問題を指摘する知見とそうでない知見が得られており、詳細に検討する必要性が見出された。また、アセクシュアルを自認している人々の中でメンタルヘルスが良好な人とそうでない人を比較し、メンタルヘルスに悪影響を及ぼす要因を探る必要があると考えられる。臨床心理学的視点から研究を進展させることで、アセクシュアルを自認しているクライアントの理解や支援に繋がることを期待する。

第4に、アセクシュアルと他のアイデンティティの相互作用や交差性についても研究の余地がある。個人のアイデンティティを考える際は1つの要素に基づいて想定するのではなく、複数のアイデンティティが交差することの役割を認識する必要がある(Dawson et al., 2018)。Foster et al., (2019) が示していたように、アセクシュアル・アイデンティティと別のアイデンティティ(性自認, 人種等)が組み合わせることで生じる影響について研究を重ねる必要があると考えられる。

最後に、研究法の課題として AVEN バイアス(Dawson et al., 2016)を指摘する。本レビューで採用した文献の69%が参加者を AVEN から募

集しており、サンプリングに偏りがあると考えられる。Guz et al. (2022) が指摘しているように、AVEN を中心としたサンプリング手法は、ネットワークに繋がっていないアセクシュアルの人々を排除している可能性がある。今後は確率的サンプリングによる調査の実施も望まれる。

## 2) 定義への示唆

本論文はアセクシュアルの定義を3つに分類したが、今後の指針としてどの定義を採用するのが適切なのだろうか。

まず、レビューの結果として性的惹かれと性的欲求が重要な要素として浮かび上がったため、どちらかを含む定義が好ましいと考えられる。

次に、「アセクシュアルを自認している人の特徴」にて示した知見より、性的欲求という概念は他者との性行為に対する欲求だけでなく、マスターベーション等の1人での性行為に対する欲求も包含していることが推測される。一方で、性的惹かれという概念を1人での性行為に対して使用している文献は見受けられなかった。

アセクシュアルの人々は性的欲求を経験し得るが、それが他者に向かないという特徴を考慮すると、アセクシュアルの定義としては「性的惹かれの欠如(ない, 程度が低い, 経験しない)」または「“他者に対する”性的欲求の欠如(ない, 程度が低い, 経験しない)」を用いることが適切であると考えられる。

## 2. レビュー2

### 1) ギャップの特定・今後の研究への示唆

日本のアセクシュアル・アイデンティティ研究は極めて少ないことが明らかとなった。ギャップは大きすぎるが故に特定が難しいが、今後の研究の方向性として、レビュー1の4つのテーマ(アセクシュアル・アイデンティティの①特徴, ②機能, ③発達, ④自認している人の特徴)に関する知見を積み重ねていくことが第一歩であると考えられる。海外の知見と比較することで、文化圏を

越えて類似しているアセクシュアル・アイデンティティの共通性や、日本のアセクシュアル・アイデンティティの独自性を探ることも有用であると考えられる。

## 2) 定義への示唆

AVEN に類する規模のコミュニティが存在しない日本において定義の共通認識を得るために、また、海外の研究との比較で日本の研究を発展させるために、日本の研究者は英語の定義や区分に準拠してアセクシュアルの定義を適切に示すことが重要であると考えられる。

## 3. 限界

本論文の限界として、第1に検索範囲が挙げられる。本レビューはデータベース検索のワードにアイデンティティの要素を含むという制限があるため、検索から外れた文献におけるアセクシュアル・アイデンティティの知見を取りこぼしている可能性がある。

第2に、選択範囲が挙げられる。査読付き論文の知見のみをマッピングしたため、灰色文献の知見を含んでいない。

以上の点は、今後の課題である。

## 文献

- American Psychological Association. (2021). *APA Guidelines for Psychological Practice with Sexual Minority Persons — APA Task Force On Psychological Practice With Sexual Minority Persons*—. American Psychological Association.
- Bogaert, A. F. (2004). *Asexuality: prevalence and associated factors in a national probability sample. Journal of Sex Research, 41* (3), 279-287.
- Brotto, L. A., Knudson, G., Inskip, J., Rhodes, K., & Erskine, Y. (2010). *Asexuality: a mixed-methods approach. Archives of Sexual Behavior, 39* (3), 599-618.
- Bulmer, M., & Izuma, K. (2018). *Implicit and Explicit Attitudes Toward Sex and Romance in Asexuals. Journal of Sex Research, 55* (8), 962-974.
- Carrigan, M. (2011). *There's more to life than sex? Difference and commonality within the asexual community. Sexualities, 14* (4), 462-478.
- Carvalho, A. C., & Rodrigues, D. L. (2022). *Sexuality, Sexual Behavior, and Relationships of Asexual Individuals: Differences Between Aromantic and Romantic Orientation. Archives of Sexual Behavior, 51*, 2159-2168.
- Dawson, M., McDonnell, L., & Scott, S. (2016). *Negotiating the Boundaries of Intimacy: The Personal Lives of Asexual People. The Sociological Review, 64* (2), 349-365.
- Dawson, M., Scott, S., & McDonnell, L. (2018). *"Asexual" Isn't Who I Am?: The Politics of Asexuality. Sociological Research Online, 23* (2), 374-391.
- Flanagan, S. K., & Peters, H. J. (2020). *Asexual-Identified Adults: Interactions with Health-Care Practitioners. Archives of Sexual Behavior, 49* (5), 1631-1643.
- Foster, A. B., & Scherrer, K. S. (2014). *Asexual-identified clients in clinical settings: Implications for culturally competent practice. Psychology of Sexual Orientation and Gender Diversity, 1* (4), 422-430.
- Foster, A. B., Eklund, A., Brewster, M. E., Walker, A. D., & Candon, E. (2019). *Personal agency disavowed: Identity construction in asexual women of color. Psychology of Sexual Orientation and Gender Diversity, 6* (2), 127-137.
- Greaves, L. M., Barlow, F. K., Huang, Y., Stronge, S., Fraser, G., & Sibley, C. G. (2017). *Asexual Identity in a New Zealand National Sample: Demographics, Well-Being, and Health. Archives of Sexual Behavior, 46* (8), 2417-2427.
- Greaves, L. M., Stronge, S., Sibley, C. G., & Barlow, F.

- K. (2021). *Asexual Identity, Personality, and Social Motivations in a New Zealand National Sample*. *Archives of Sexual Behavior*, 50(8), 3843-3852.
- Gupta, K. (2017). *What Does Asexuality Teach Us About Sexual Disinterest? Recommendations for Health Professionals Based on a Qualitative Study With Asexually Identified People*. *Journal of Sex & Marital Therapy*, 43(1), 1-14.
- Guz, S., Hecht, H. K., Kattari, S. K., Gross, E. B., & Ross, E. (2022). *A Scoping Review of Empirical Asexuality Research in Social Science Literature*. *Archives of Sexual Behavior*, 51, 2135-2145.
- Kelleher, S., & Murphy, M. (2022a). *Asexual identity development and internalisation: a thematic analysis*. *Sexual and Relationship Therapy: Journal of the British Association for Sexual and Relationship Therapy*.  
https://doi.org/10.1080/14681994.2022.2091127
- Kelleher, S., & Murphy, M. (2022b). *The identity development and internalization of asexual orientation in women: an interpretative phenomenological analysis*. *Sexual and Relationship Therapy: Journal of the British Association for Sexual and Relationship Therapy*.  
https://doi.org/10.1080/14681994.2022.2031960
- Kinsey, A. C., Pomeroy, W. R., & Martin, C. E. (1948). *Sexual behavior in the human male*. *American Journal of Public Health*, 38(6), 894-898.
- MacNeela, P., & Murphy, A. (2015). *Freedom, invisibility, and community: a qualitative study of self-identification with asexuality*. *Archives of Sexual Behavior*, 44(3), 799-812.
- Mandigo, D. M., & Kavar, L. F. (2022). *The Asexual Male Experience: A Phenomenological Inquiry*. *The Qualitative Report*, 27(2), 488-508.
- Mitchell, H., & Hunnicutt, G. (2019). *Challenging Accepted Scripts of Sexual "Normality": Asexual Narratives of Non-normative Identity and Experience*. *Sexuality and Culture*, 23(2), 507-524.
- 三宅 大二郎・平森 大規 (2021). 日本におけるアロマンティック/アセクシュアル・スペクトラムの人口学的多様性——「Aro/Ace 調査 2020」の分析結果から—— 人口問題研究, 77(2), 206-232.
- Mollet, A. L. (2020). *"I have a lot of feelings, just none in the genitalia region": A grounded theory of asexual college students' identity journeys*. *Journal of College Student Development*, 61(2), 189-206.
- Mollet, A. L., & Lackman, B. R. (2018). *Asexual borderlands: Asexual collegians' reflections on inclusion under the LGBTQ umbrella*. *Journal of College Student Development*, 59(5), 623-628.
- Morgan, E. M. (2013). *Contemporary Issues in Sexual Orientation and Identity Development in Emerging Adulthood*. *Emerging Adulthood*, 1(1), 52-66.
- 沖田 勇帆・廣瀬 卓哉・長 志保・高瀬 駿・岸 優斗 (2021). JBI Manual For Evidence Synthesis: Scoping Reviews 2020. スコーピングレビューのための最新版ガイドライン(日本語訳) 日本臨床作業療法研究, 8, 37-42.
- Parent, M. C., & Ferriter, K. P. (2018). *The Co-Occurrence of Asexuality and Self-Reported Post-Traumatic Stress Disorder Diagnosis and Sexual Trauma Within the Past 12 Months Among U.S. College Students*. *Archives of Sexual Behavior*, 47(4), 1277-1282.
- Prause, N., & Graham, C. A. (2007). *Asexuality: classification and characterization*. *Archives of Sexual Behavior*, 36(3), 341-356.
- Robbins, N. K., Low, K. G., & Query, A. N. (2016). *A Qualitative Exploration of the "Coming Out" Process for Asexual Individuals*. *Archives of Sexual Behavior*, 45(3), 751-760.

- Ronis, S. T., Byers, E. S., Brotto, L. A., & Nichols, S. (2021). *Beyond the Label: Asexual Identity Among Individuals on the High-Functioning Autism Spectrum*. *Archives of Sexual Behavior, 50*(8), 3831-3842.
- Rothblum, E. D., Heimann, K., & Carpenter, K. (2018). *The lives of asexual individuals outside of sexual and romantic relationships: education, occupation, religion and community*. *Psychology and Sexuality, 10*(1), 83-93.
- Rothblum, E. D., Krueger, E. A., Kittle, K. R., & Meyer, I. H. (2020). *Asexual and Non-Asexual Respondents from a U.S. Population-Based Study of Sexual Minorities*. *Archives of Sexual Behavior, 49*(2), 757-767.
- Scherrer, K. S. (2008). *Coming to an Asexual Identity: Negotiating Identity, Negotiating Desire*. *Sexualities, 11*(5), 621-641.
- Scott, S., McDonnell, L., & Dawson, M. (2016). *Stories of non-becoming: Non-issues, non-events and non-identities in asexual lives*. *Symbolic Interaction, 39*(2), 268-286.
- Su, Y., & Zheng, L. (2022). *Stability and Change in Asexuality: Relationship Between Sexual/Romantic Attraction and Sexual Desire*. *Journal of Sex Research*.  
<https://doi.org/10.1080/00224499.2022.2045889>
- 友利 幸之介・澤田 辰徳・大野 勘太・高橋 香代子・沖田 勇帆 (2020). スコーピングレビューのための報告ガイドライン日本語版: PRISMA-ScR 日本臨床作業療法研究, 7, 70-76.
- Van Houdenhove, E., Gijs, L., T'Sjoen, G., & Enzlin, P. (2015). *Stories about asexuality: a qualitative study on asexual women*. *Journal of Sex & Marital Therapy, 41*(3), 262-281.
- Winer, C., Carroll, M., Yang, Y., Linder, K., & Miles, B. (2022). *"I Didn't Know Ace Was a Thing": Bisexuality and pansexuality as identity pathways in asexual identity formation*. *Sexualities*.  
<https://doi.org/10.1177/13634607221085485>
- Worthen, M. G. F., & Laljer, J. (2021). *LGBTQ+A? Asexuals' Attitudes Toward LGBTQ Individuals: A Test of Norm-Centered Stigma Theory*. *Sexuality and Culture, 25*(6), 2052-2074.
- Yang, Y. (2021). *Gender uncoupled: Asexual people making sense of high school sex talk*. *Sexualities*.  
<https://doi.org/10.1177/13634607211033865>
- 吉岡 真梨子 (2019). Asexual であるという自覚はいかにしてなされ自己受容されるのか?——ライフストーリー・インタビューによる事例から—— 学習開発学研究, 12, 61-70.
- Yule, M. A., Brotto, L. A., & Gorzalka, B. B. (2013). *Mental health and interpersonal functioning in self-identified asexual men and women*. *Psychology & Sexuality, 4*(2), 136-151.
- Yule, M. A., Brotto, L. A., & Gorzalka, B. B. (2015). *A validated measure of no sexual attraction: the Asexuality Identification Scale*. *Psychological Assessment, 27*(1), 148-160.
- Zheng, L., & Su, Y. (2018). *Patterns of Asexuality in China: Sexual Activity, Sexual and Romantic Attraction, and Sexual Desire*. *Archives of Sexual Behavior, 47*(4), 1265-1276.

表1 文献要約表 (レビュー1)

著者情報	アセクシュアルの定義	研究デザイン	対象, 調査内容	主要な発見 ①アセクシュアル・アイデンティティの特徴 ②アセクシュアル・アイデンティティの機能 ③アセクシュアル・アイデンティティの発達 ④アセクシュアルを自認している人の特徴
Prause and Graham (2007) アメリカ	複数の定義を紹介	質的研究 + 横断研究	〈研究1〉アセクシュアル自認 (N=4)、性発達とアセクシュアルの経験等 〈研究2〉便宜的サンプル (N=1146; n=41アセクシュアル自認)、性的経験/欲求等	① 性的欲求の低さがアセクシュアル・アイデンティティを予測する主要な特徴であることが示された。面接による4つのテーマ: (1)性行為の経験, (2)行動を性的と認識するか, (2)アセクシュアルの定義の試み, (3)性的行動への動機づけの欠如, (4)他者と異なることへの懸念/④ パートナーとのセックスへの欲求, 性的興奮が低かった。自認行為の欲求は非アセクシュアルと差がなかった。
Scherrer (2008) アメリカ	明記なし	質的研究	アセクシュアル自認 (N=102)、人口統計・アイデンティティ・健康等	① 3テーマ: (1)性的なことの意味, (2)本質的なアセクシュアル, (3)ロマンティックな次元/③ アイデンティティ形成過程におけるアセクシュアルとLGBの類似点: (1)医療機関との複雑な関連性, (2)インターネット上でのコミュニティ形成, (3)セクシュアリティを生物学的・生得的と捉える傾向
Brotto et al. (2010) カナダ	明記なし	横断研究 + 質的研究	〈研究1〉アセクシュアル自認 (N=187)、性行動・精神病理・対人機能等 〈研究2〉研究1の参加者 (N=15)、セクシュアリティ・性的欲求・経験等	① 10のテーマ: 定義, 違和感, ロマンティックとアセクシュアルの関係の区別, アセクシュアルは他の障害を装ったものではない, シゾイドパーソナリティとの重なり, 自認行為の動機, 専門用語, 人間関係における境界線の交渉, 宗教, 教育や汚名返上 (Destigmatize) の必要性/④ 標準データより性的反応は低いが, 90%は性的苦痛を否定した。性交頻度は低いが, 男性の80%, 女性の77%が自認行為の経験あり。人格下位尺度の中で社会的引きこもりが最も高く, 対人機能は正常範囲。12%がアレキシサイミアにおいて臨床カットオフで高値。
Carrigan (2011) イギリス	明記なし	質的研究	アセクシュアル自認, アイデンティティと生活体験	① アセクシュアル・アイデンティティにはロマンティックな次元があり, ロマンティック・アセクシュアルの中でも恋愛感情が性別に起因する人と, 性別が関係ない人がいた (多様性)。セックスに対する態度としては(1)セックスポジティブな人, (2)セックスニュートラルな人, (3)アンチセックス・セックス回避型の人が存在した。/③ 共通の軌跡: 個人の差異, 自問自答, 病的な思い込み, 自己明確化, 共同体としてのアイデンティティ
Yule et al. (2013) カナダ	I	横断研究	アセクシュアル・非異性愛者・異性愛者の白人 (N=806; n=282アセクシュアル自認)、身体/精神的健康・対人機能等	④ 異性愛者よりも自殺傾向が高かった。他の指標においても, 精神的健康や対人関係の問題における有病率の高さとアセクシュアルに関連する可能性が示された。
Foster and Scherrer (2014) アメリカ	I	質的研究	アセクシュアル自認 (N=86)、医療従事者との交流におけるアセクシュアル・アイデンティティの重要性等	③ 多くの参加者にとって, AVENのようなオンラインコミュニティがポジティブな感覚, 自己理解, 自己受容に貢献した。/④ アセクシュアルのケアに関する3テーマ: 健康としてのアセクシュアル, アセクシュアルに対する医療従事者のバイアスの予想, 医療従事者との肯定的な経験
MacNeela and Murphy (2015) アイルランド	I	質的研究	アセクシュアル自認 (N=66)、人口統計学的情報・性自認・コミュニティ等	① アセクシュアル・アイデンティティの多様性と複雑性が明らかとなった。/③ 高齢の参加者は, アセクシュアル理解のための情報が昔は欠如していたことを示した。/①④ インターネットコミュニティでの開示とアイデンティティ探索によって社会における不可視性や異性愛規範に立ち向かう傾向がある。
Van Houdenhove et al. (2015) ベルギー	I	質的研究	アセクシュアル自認 (N=9)、自覚の経験/カミングアウト等	① ロマンティック・アセクシュアルとアロマティック・アセクシュアルはニーズと困難において異なるグループであった。/③ 周囲との差異を感じ, その感覚を理解しようとする模索 (レスビアンの可能性を考えた人もいた)。アセクシュアルをインターネット上で知り, 自分に合ったアイデンティティを発見するという経過を辿っていた。インターネットはアセクシュアル・アイデンティティの発見・受容において重要な役割を担っていた。/④ 自認行為の経験と性的興奮の能力を示したが, 主観的・精神的な性的興奮を経験することは困難である可能性がある。セックスに嫌悪感を示す人もいたが, 多くは興味がないことを示した。カミングアウトに対する他者からの否定的・拒絶的反応の経験が示された。
Robbins et al. (2016) アメリカ	I	質的研究	アセクシュアル自認 (N=169)、アセクシュアル・アイデンティティの発達等	① カミングアウトの語りによる7つのテーマ: (1)カミングアウトの動機, (2)他者に伏せる動機, (3)カミングアウトへの無関心の説明, (4)否定的な受け止め方, (5)肯定的な反応, (6)インターネットの役割, (7)振り返り/③ アセクシュアル・アイデンティティ発達モデル: (1)混乱, (2)用語の発見, (3)探索と教育, (4)受容とサリエンス (Saliency) 交渉, (5)カミングアウト, (6)統合
Dawson et al. (2016) イギリス	I + II	質的研究	アセクシュアル自認, 伝記的インタビュー (N=50)、経験/思考等に関する2週間のダイアリー (N=27)	① 27人の参加者が17種類の性的指向を示した (多様性)。/④ 親密さの実践における3つの主要なテーマ: 友人関係, 親密さの実践としてのセックス, 親密さの実践からの排除
Scott et al. (2016) イギリス	I + II	質的研究	アセクシュアル自認, 伝記的インタビュー (N=50)、経験/思考等に関する2週間のダイアリー (N=27)	① 強いアセクシュアル・アイデンティティを表明する人もいれば, 人生にとって重要でない側面とみなしている参加者もいた。/③ アセクシュアル自認の最初の段階は, 自問自答, 発見, 「アセクシュアル」という言葉の意味を理解する期間であった。/②③ AVENなどのオンラインコミュニティを通してアセクシュアルを発見したとき, 安堵感, 快適さ, 安心感を得る傾向がある。
Greaves et al. (2017) ニューージーランド	I	横断研究	ニューージーランドの成人 (N=15822)、人口統計学的情報・心理的苦痛等	④ 女性の割合が高く, シスジェンダー, 真剣な恋愛相手がいる, 親である割合が低かった。アセクシュアル・アイデンティティによる精神的・身体的な健康への悪影響は認められなかった。
Gupta (2017) アメリカ	I	質的研究	米国在住のアセクシュアル自認成人 (N=30)、アセクシュアルの経験・性的欲望低下障害 (HSDD) との関連性	④ 5つの知見: (1) HSDDとアセクシュアルに明確な境界線なし, (2) 苦痛だけではHSDDとアセクシュアルを分けることはできない, (3) アセクシュアルはパートナーとの性行為交渉に困難を抱えることがある, (4) アセクシュアルは充実した性の形として経験できる, (5) 懸念はあるものの, アセクシュアルの多くは性欲低下を診断カテゴリーとすることや, 性欲障害の治療法開発を支持していた。
Parent and Ferriter (2018) アメリカ	明記なし	横断研究	Healthy Minds Studyの米国大学生 (N=33385; n=228アセクシュアル自認)、PTSD・性的トラウマ	④ 非アセクシュアルと比較して, PTSDの診断を報告する可能性が4.4倍高く, 性的トラウマを報告する可能性が2.5倍高かった。
Zheng and Su (2018) 中国	I	横断研究	中国のアセクシュアル自認 (N=284)、異性愛者 (N=217)、性行為・性的欲求	① 中国のアセクシュアルは欧米諸国と同様のパターンを示した。/④ 異性愛者と比較して, 自認行為の頻度, 性経験, 性的惹かれ, DSD (他者との性行為に対する関心・欲求) が低く, SSD (自分1人での性行為に対する関心・欲求) はわずかに低かった。
Blumer and Izuma (2018) イギリス	I	横断研究	アセクシュアル群 (N=18)、対照群 (N=27)、セックスと恋愛に関する明示的・潜在的態度	④ 対照群と比較して, 性に対してより否定的な明示的・暗黙的態度を示し, 恋愛に対してより否定的な明示的態度を示した。ロマンティック・アセクシュアルと比較して, アロマティック・アセクシュアルは恋愛に対してより否定的な明示的態度を示したが, 暗黙的態度は差がなかった。

Dawson et al. (2018) スコットランド	I	質的研究	アセクシュアル自認、アイデンティティの形成過程インタビュー(N=50)・アセクシュアルの経験を記す2週間のダイアリー(N=27)	① 参加者は22個の異なるアイデンティティを示した(多様性)。カミングアウトの重要性については参加者間で捉え方に差があった。/② 大多数がアセクシュアルは自分を説明するために役立つと述べたが、「クィア」ラベルの方が有用だと感じている人もいた。/③ AVENはアセクシュアルを発見するための場所として重要だが、中流階級の白人ユーザーが支配的であるという指摘もあった。/④ アセクシュアルを歓迎しないLGBTQグループが多いという指摘があった。
Mollet and Lackman (2018) アメリカ	I	質的研究	アセクシュアル自認大学生(N=248)、LGBTQコミュニティの一人としての認識	①④ LGBTQの一人という意識をもつ人もいれば、もたない人もいた。認識における3テーマ: アイデンティティの用語、コミュニティに対する認識、複雑なアイデンティティの扱い方
Mitchell and Hunicutt (2019) アメリカ	I	質的研究	アセクシュアル自認(N=10)、ライフストーリー	③ アイデンティティ発見のプロセスにおいて、性的経験、様々なセクシュアリティ探索、デジタル媒体でのリサーチを経る傾向がある。
Rothblum et al. (2018) アメリカ	I	質的研究	アセクシュアル自認(N=27)、生活の非性的な側面(教育、職業、宗教等)	④ アセクシュアルについて、勉強時間が増える、気が散らないなどの利点と、孤独感、取り残された感覚、不安感などの欠点が挙げられた。4分の3が無神論者であると認識していた。
Foster et al. (2019) アメリカ	II	質的研究	有色人種のアセクシュアル自認女性(N=11)、アイデンティティ形成における人種・ジェンダー・アセクシュアルの相互作用	③ アセクシュアル・アイデンティティの理解と受容に影響を与える6領域: (1) 帰属の程度、(2) アイデンティティの発達段階、(3) 可視性、(4) スティグマ、(5) アイデンティティの交差、(6) 対人関係の繋がり/発達段階: (a) 漸進的なアイデンティティフィクションのプロセス、(b) 差異の意味づけ、(c) 行動と専断の交渉を伴うアセクシュアルの個人的定義、(d) ロマンティックな魅力に対する経験・開放性、(e) アセクシュアル・アイデンティティの受容
Flanagan and Peters (2020) アメリカ	明記なし	横断研究	アセクシュアル自認成人(N=136)、メンタルヘルス・医療従事者との経験	④ アセクシュアル関連要因は医療機関にて障害と診断される傾向がある。アセクシュアルの人は否定的対応を避けるため、医療機関にてアセクシュアル・アイデンティティを開示しない傾向がある。
Rothblum et al. (2020) アメリカ	明記なし	横断研究	アセクシュアル自認(N=19)と非アセクシュアル(N=1504)、性的マイノリティのコホート比較縦断研究からデータ使用	④ 非アセクシュアルと比較して、過去5年間の性行為経験と性的惹かれが低く、スティグマや日常的な差別をより感じていた。医療従事者にカミングアウトしたアセクシュアル参加者は少なかった。
Mollet (2020) アメリカ	I	質的研究	アセクシュアル自認大学生、アイデンティティ発達	③ アセクシュアル・アイデンティティ発達の理論モデル(Asexual Student Expatiation)における3サイクル: 気づきを得る、アセクシュアリティを自認する、アセクシュアリティを調和させる
Ronis et al. (2021) カナダ	I	横断研究	北米のASDの成人(N=332)、性的アイデンティティ・性的魅力・恋愛感情等	② 20%がAISのカットオフを上回り、そのうち自認していたのは5.1%。性的惹かれの欠如だけでなく、対人関係を築くための欲求・技能の欠如をアセクシュアルに結びつけている人もいた。
Greaves et al. (2021) ニュージーランド	I	横断研究	ニュージーランドの成人(N=75-283)、接近・回避社会動機等	④ LGBと比較して、社会的関係で親密さを高めようとする程度、関係の成長・発展に向かう程度、楽しさや意味のある経験を共有しようとする程度への同意度が低かった。
Worthen and Laljer (2021) アメリカ	III	横断研究	米国成人(N=3104; n=45アセクシュアル自認)、LGBTQに対するスティグマ	④ 性的マイノリティに関して、セクシュアル・アイデンティティで特定される集団に対しては否定的態度を示さず、ジェンダーやクィア・アイデンティティで特定される集団に対しては否定的態度を示さないことがわかった。
Yang (2021) アメリカ	I	質的研究	アセクシュアル自認(N=21)、高校時代の体験	③④ セックストークを男らしさ・女らしさの問題と結びつけず、アセクシュアル・アイデンティティ発見の契機、友人からのサポートの契機、未熟・不適切な行為、単なる無意味な事柄として捉えていた。
Su and Zheng (2022) 中国	I	コホート研究	アセクシュアル自認(第1・第2波 N=168、3波参加 N=137)、アイデンティティと惹かれ等・12ヶ月間隔3波	① アセクシュアルとグレーアセクシュアルの約83%が2波間で性的指向のアイデンティティを維持(アセクシュアルの安定性)。性的惹かれの変化のみがアセクシュアル・アイデンティティを有意に予測していた。/④ DSD(他者との性行為に対する関心・欲求)の欠如は経年的に安定しており、SSD(自分1人での性行為に対する関心・欲求)は増加する傾向があった。
Carvalho and Rodrigues (2022) ポルトガル	I	横断研究	アセクシュアル・オンラインコミュニティのメンバー(N=447)、AISの構成概念への同一視・性行動・愛着スタイル等	① アロマンティック・アセクシュアルは性自認に疑問を持つ傾向、ロマンティック・アセクシュアルはシスジェンダーである傾向が強かった。前者はAIS項目に同一化し、回避的な愛着スタイル、交際のコミットの懸念を示す傾向があった。後者は性嫌悪が少なく、性体験が豊富であり、恋愛関係を持った頻度が高く、恋愛関係を持ちたいという願望が強く、性的パフォーマンスを気にする傾向があった。
Mandigo and Kavar (2022) アメリカ	複数の定義を紹介	質的研究	アセクシュアル自認成人男性(N=8)、アセクシュアルとしての経験	① アセクシュアルを本質的なものとして捉える傾向があった。/③ 5つの主要テーマ: (1) 感情的反応、(2) 他者性の感覚、(3) 発見の過程、(4) 帰属意識、(5) 分裂した魅力モデルへの適応/④ 参加者の語りでは、身体の緊張緩和のために自慰行為をすること、身体的な性的興奮はあっても精神的な性的興奮を経験しないことが述べられていた。
Winer et al. (2022) アメリカ	複数の定義を紹介	横断研究 + 質的研究	アセクシュアル自認、アセクシュアル・コミュニティ調査(N=7568)のデータ・コミュニティの投稿	③ 47%が人生のある時点でバイセクシュアル/パンセクシュアルであると認識しており、アセクシュアル・アイデンティティの道筋として位置づけられている可能性がある。
Kelleher and Murphy (2022a) アイルランド	I	横断研究	アセクシュアル・スペクトラム自認(N=99)、経験・態度・信念	②③ 4つの主要なテーマ: アセクシュアルになること、アセクシュアルであること、親密な社会表現、内面化 ③ アセクシュアル・アイデンティティの発見は混乱、否定、他者との違いの感覚を通して始まった。アイデンティティを発展する上でコミュニティは重要な役割を担っていた。/④ 全員がアセクシュアルであることに誇りを感じていた。/③④ 5つのテーマ: アセクシュアル自己、アセクシュアルの発見、情報開示、人間関係のナビゲーション、アセクシュアルを受け入れるための障壁
Kelleher and Murphy (2022b) アイルランド	I	質的研究	アセクシュアル自認女性(N=5)、認知・行動・経験等	

表2 文献要約表(レビュー2)

著者情報	アセクシュアルの定義	研究デザイン	対象、調査内容	主要な発見 ①アセクシュアル・アイデンティティの特徴 ②アセクシュアル・アイデンティティの機能 ③アセクシュアル・アイデンティティの発達 ④アセクシュアルを自認しているの特徴
吉岡 真梨子 (2019) 日本		II 質的研究	アセクシュアル自認女子大学生(N=1、ロマンティック・アセクシュアルに相当)、ライフストーリー	① 日本ではアセクシュアルの認知度の低さ、性的話題が忌避される傾向より、当事者が積極的に行動しなければ用語や他の当事者に辿り着くことが困難。/③ 自覚のプロセス: 交際等の経験を通じて周囲とのギャップを認識し(第一段階)、アセクシュアルの用語を知る・当事者の存在を知る(第二段階)。第一段階の前に第二段階を経ることも考えられるが、その場合は自分を当てはめないため自覚に至らない可能性がある。アセクシュアルの自覚と受容は同時になされる可能性がある。